

第24回岩手県文化芸術振興審議会

日時：平成29年8月31日（木） 午後3時から

場所：エスポワールいわて 1階小会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 新任委員紹介
- 4 報告事項
文化スポーツ関連事務の一元化及び強化について ……【資料1】
- 5 議 事
平成28年度における「岩手県文化芸術振興指針」実施結果について ……【資料2】
- 6 その他
「文化芸術振興基本法」の一部改正について ……【資料3】
- 7 閉 会

《配付資料》

次第

出席者名簿

資料1：文化スポーツ関連事務の一元化及び強化について

資料2：平成28年度における「岩手県文化芸術振興指針」実施効果の検証について

資料3：「文化芸術振興基本法」の一部改正について

第24回岩手県文化芸術振興審議会 出席者名簿

○ 第5期岩手県文化芸術振興審議会委員（任期：平成28年5月15日～平成30年5月14日）

氏名	所属・役職等	出欠
板垣崇志	社会福祉法人光林会るんびにい美術館アートディレクター	出席
上田吹黄	一級建築士ちいろば設計	出席
菅野洋樹	公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長	出席
木村敦子	「てくり」編集人 アートディレクター	出席
小田島正明	公益財団法人全国高等学校文化連盟会長 岩手県立盛岡第四高等学校校長	出席
齋藤桃子	岩手町立石神の丘美術館学芸員	出席
坂田裕一	特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター理事 長	出席
佐々木民夫	岩手県立大学名誉教授	出席
佐藤由紀男	岩手県文化財保護審議会委員 岩手大学教育学部教授	出席
柴田和子	一般社団法人岩手県芸術文化協会会長	出席
渋谷久美	公益財団法人盛岡市文化振興事業団盛岡市民文化ホールオル ガニスト	出席
千葉真弓	一般財団法人北上市文化創造（北上市地域交流センターさくらホ ル）職員	出席
長坂友太	戸呂町神楽保存会代表	欠席
中嶋奈津子	岩手県文化財保護審議会委員 佛教大学非常勤講師	欠席
本村健太	岩手大学人文社会科学部教授	出席
渡辺靖	慶応義塾大学環境情報学部教授	出席

（平成29年8月1日現在、敬称略、五十音順）

○ 事務局

氏名	所属	職
上田 幹也	岩手県文化スポーツ部長	
泉 裕之	岩手県文化スポーツ部副部长兼文化スポーツ企画室長	
中里 裕美	岩手県文化スポーツ部文化振興課総括課長	
澤田 彰弘	”	文化芸術担当課長
堤 隆	”	文化交流担当課長
佐藤 嘉広	”	主幹兼世界遺産担当課長
金 亜希子	”	主任主査
桜田 功	”	主任主査
伊藤 祐樹	”	主査
三好 佐由理	”	主査
鈴木 修	”	主査
小野寺 洋	”	主事
鎌田 勉	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課文化財課長	
福田 隆	”	主任主査
田原 俊嗣	岩手県県土整備部都市計画課主任主査	

文化スポーツ関連事務の一元化及び強化について

県では、今年度、これまで知事部局及び教育委員会事務局で担当していた文化・スポーツに関する事務を知事部局に一元化するとともに、当該事務を担う専任組織として「文化スポーツ部」を設置しました。

また、各広域振興局経営企画部には、文化スポーツ振興を担当する特命課長を配置しました。

昨年開催した希望郷いわて国体・希望郷いわて大会で培った文化・スポーツの力を、市町村・関係団体の方々と連携・協働して更に高めていくことにより、本県の復興とふるさと振興につなげていきます。

1 知事部局への一元化の背景

(1) 県内外の動向

① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（H20.4施行）

「文化（文化財保護を除く）」「スポーツ（学校体育を除く）」の事務を首長が担当できることとされた。

② 中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」（H25.12答申）

「文化財保護を除く文化に関する事務や学校体育を除くスポーツに関する事務は、原則として首長の事務としつつも、地方公共団体の判断で、教育行政部局が担当することができるようにすることを検討する」とされた。

⇒ 上記法律改正及び答申を受け、文化・スポーツに関する事務を首長部局に一元化する自治体が増加。

都道府県	文化芸術分野：40以上、スポーツ分野：10以上
県内市町村	7市（盛岡、花巻、北上、奥州、一関、遠野、釜石）

(2) 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の成功

① 国体では天皇杯・皇后杯とも第2位、大会では139個のメダル獲得という輝かしい成果

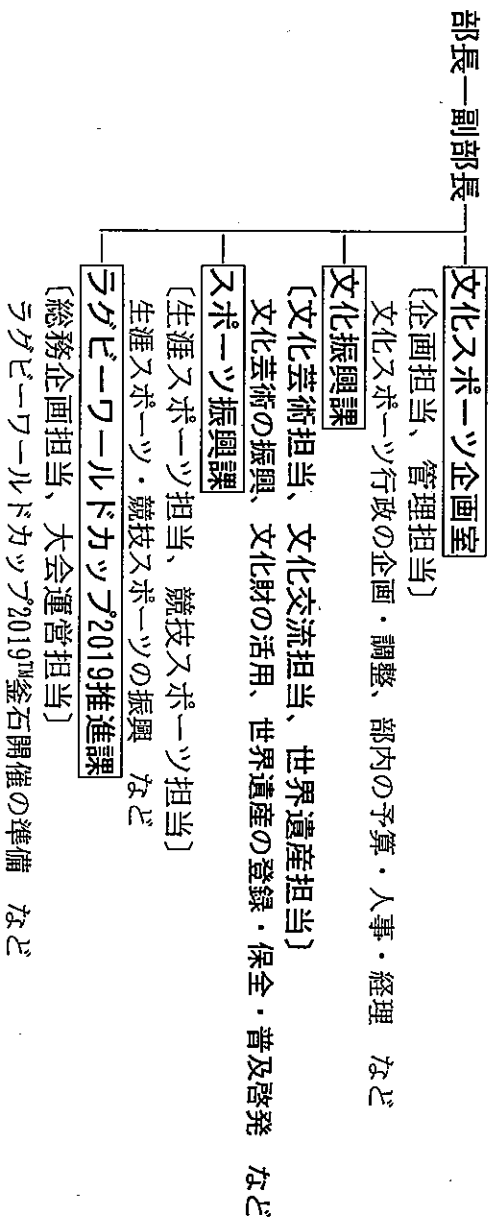
② 式典や文化プログラム、国体・大会プラスなどの機会を利用し、県内各地で様々な文化芸術活動を展開

⇒ 競技力の向上や、全国の方々から評価された伝統芸能などの文化芸術の力、国体・大会の成功を通じて得られた県民の自信や参画意識の高まりなど、国体・大会で培ったレガシー（遺産）を次の世代につなげていくことが課題。

2 「文化スポーツ部」の設置及び各広域振興局への「特命課長」の配置

- (1) 昨年の国体・大会を契機とするとともに、2年後のラグビーワールドカップ2019™の釜石開催や3年後の東京2020オリンピックピック・パラリンピック競技大会を見据え、文化・スポーツの力を生かし、県民一人ひとりの個性と創造性が輝く地域づくりを進めるため、今年度、これまで知事部局及び教育委員会事務局で担当していた文化・スポーツに関する事務を知事部局に一元化するとともに、当該事務を担う専担組織として「文化スポーツ部」を設置。
- (2) また、文化・スポーツの振興に係る市町村等との連携を強化するため、各広域振興局経営企画部に特命課長（文化スポーツ振興）を配置。
- (3) 「文化スポーツ部」及び各広域振興局において、文化・スポーツの振興に更に取り組むことにより、
 - ① 個人の感性・創造性が発揮され、心のつながりを育み、多様性を理解し尊重し合える社会の形成を図る。
 - ② 地域コミュニティの活性化や観光振興をはじめとする経済分野への波及を図るなど、新たな需要や人の流れを創出し、復興とふるさと振興につなげる。

3 「文化スポーツ部」の組織体制



【参考：文化振興課文化芸術担当の主な分掌事務】

文化芸術振興基本条例・指針の運用、文化芸術振興審議会の開催
 文化芸術創造アドバイザー・文化芸術コーディネーターの活用
 各広域振興局における文化芸術活動支援ネットワークの構築
 県ホームページ「いわての文化情報大事典」の運営
 県民会館・県公会堂の管理運営
 若手芸術祭の開催・支援、国民文化祭への参加支援
 県芸術選奨・美術選奨の実施
 子どもの文化芸術体験活動の推進
 県文化振興事業団の運営指導、県内文化関係公益法人等の指導監督
 民俗芸能フェスティバルの開催、被災郷土芸能団体の復興支援
 日本遺産の認定支援
 障がい者・高齢者の文化芸術活動支援
 beyond2020プログラム（東京2020大会文化プログラム）の認証 など

4 平成29年度における文化振興課の主な事業

(1) 日常生活を豊かにする文化芸術情報の発信

事業名	事業概要	予算額(百万円)	
		H29	H28
いわて文化芸術王国構築事業費	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術コーディネーターの委嘱 文化芸術活動支援ネットワーク会議の開催 アートマネジメント研修の開催 「いわての文化情報大事典」の管理運営 県内世界遺産の情報発信、理念普及 	3.4	3.6
世界遺産の理念・価値普及事業費	<ul style="list-style-type: none"> 県内世界遺産の情報発信、理念普及 	6.5	13.4
国体・大会レガシー継承発展事業費【新規】	<ul style="list-style-type: none"> 国体・大会1周年記念事業の実施 県文化振興事業団への専門人材の配置 超人スポーツを地域振興に生かす取組の推進 「いわて人間讃歌」イラスタの活用 「いわての文化情報大事典」のリニューアル検討 	24.1	—
訪日外国人向け伝統文化鑑賞・体験プログラム開発事業費【新規】 【復興関連】	<ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人向け伝統文化鑑賞・体験プログラムの開発 	6.1	—

(2) 文化芸術と県民との交流支援体制の整備

事業名	事業概要	予算額(百万円)	
		H29	H28
いわて文化芸術王国構築事業費(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術コーディネーターの委嘱 文化芸術活動支援ネットワーク会議の開催 アートマネジメント研修の開催 「いわての文化情報大事典」の管理運営 	3.4	3.6
いわてアール・ブリュット魅力発信事業費【新規】	<ul style="list-style-type: none"> 「いわてアール・ブリュット巡回展(仮称)」の開催 	9.4	—
ソノトパワーいわて戦略推進事業費	<ul style="list-style-type: none"> 「いわてマンガプロジェクト」の推進 	13.9	18.6
若者文化振興事業費	<ul style="list-style-type: none"> 「いわて若者文化祭2017」の開催支援 	17.0	14.6

(3) 豊かな創造性の涵養と文化芸術活動への支援

事業名	事業概要	予算額(百万円)	
		H29	H28
岩手芸術祭開催費	<ul style="list-style-type: none"> 「第70回岩手芸術祭」及び開幕フェスティバルの開催 	13.1	13.1
岩手芸術祭地域活性化・魅力発信事業費 【新規】	<ul style="list-style-type: none"> 「岩手芸術祭」PRイベント(地方共催イベント)の開催 国体・大会1周年記念芸術体験イベントの開催 	9.3	—
海外との絆を活かした文化芸術形成促進事業費	<ul style="list-style-type: none"> 「中尊寺レクイエムコンサート」出演者による地元小中高生へのアウトリーチ、クリニック等の実施 「日露交歓コンサート2017岩手公演」の開催 県南圏域の若者が企画した文化芸術イベントの開催支援 	10.9	2.3
芸術文化振興事業費(青少年芸術普及事業)	<ul style="list-style-type: none"> 県内各地での小中学生向け芸術鑑賞会の開催支援 	3.6	3.4
被災地児童生徒文化芸術支援事業費 【復興関連】	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸12市町村の小中高生向け文化芸術鑑賞に係るバリエーション借上げ 	8.7	38.3
文化財保護推進費(民俗芸能伝承促進事業)・郷土芸能復興支援事業補助 【復興関連】	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県民俗芸能フェスティバルの開催 被災地における郷土芸能団体の活動再開支援 	2.3	2.4
世界遺産登録推進事業費(平泉世界遺産登録推進事業)	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産出前授業の実施 「平泉の文化遺産」の世界遺産拡張登録の推進 	46.7	37.3
「平泉の文化遺産」ガイドダンス施設整備事業費 【新規】	<ul style="list-style-type: none"> 「平泉の文化遺産」ガイドダンス施設建築基本設計等の策定 	38.0	—
世界遺産登録推進事業費(明治日本の産業革命遺産保存活用推進事業)	<ul style="list-style-type: none"> 「明治日本の産業革命遺産」の普及啓発、世界遺産委員会決議事項への対応 	5.7	6.8

(4) 文化芸術活動の担い手を支援するネットワークの形成

事業名	事業概要	予算額(百万円)	
		H29	H28
いわて文化芸術王国構築事業費(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術コーディネーターの委嘱 文化芸術活動支援ネットワーク会議の開催 アートマネジメント研修の開催 「いわての文化情報大事典」の管理運営 	3.4	3.6

平成29年度における県の文化芸術振興体制について

1 文化振興課

○ 文化芸術担当【TEL：019-629-6485】

- ・ 文化芸術振興基本条例・指針の運用、文化芸術振興審議会の開催
 - ・ 文化芸術創造アトバイザー・文化芸術コーディネーターの活用
 - ・ 各広域振興圏における文化芸術活動支援ネットワークの構築
 - ・ 県ホームページ「いわての文化情報大辞典」の運営
 - ・ 県民会館・県公会堂の管理運営
 - ・ 岩手芸術祭の開催・支援、国民文化祭への参加支援
 - ・ 県芸術選奨・美術選奨の実施
 - ・ 子どもの文化芸術体験活動の推進
 - ・ 県文化振興事業団の運営指導、県内文化関係公益法人等の指導監督
 - ・ 民俗芸能フェスティバルの開催、被災郷土芸能団体の復興支援
 - ・ 日本遺産の認定支援
 - ・ 障がい者・高齢者の文化芸術活動支援
 - ・ beyond2020プログラム（東京2020大会文化プログラム）の認証 など
- ### (2) 文化交流担当【TEL：019-629-6481】
- ・ いわて若者文化祭の開催、若者の文化芸術活動支援
 - ・ いわてヤングアプロジェクトの推進
 - ・ 若手発・超人スポープロジェクトの推進
 - ・ ニコニコ超会議への出展、怪フナーラムの開催
 - ・ ゲームを活用した地域振興
 - ・ 映像文化の振興 など
- ### (3) 世界遺産担当【TEL：019-629-6488】
- ・ 「平泉の文化遺産」の保存管理、拡張登録、ガイダンス施設整備
 - ・ 「明治日本の産業革命遺産（橋野鉄鉱山）」の保存管理
 - ・ 世界遺産の普及啓発 など

2 各広域振興局経営企画部特命課長（文化スポーツ振興）

- (1) 盛岡広域振興局【TEL：019-629-6510】
- (2) 県南広域振興局【TEL：0197-22-2812】
- (3) 沿岸広域振興局【TEL：0193-25-2701】
- (4) 県北広域振興局【TEL：0194-53-4981】

3 文化芸術コーディネーター

- (1) 県中央広域振興圏
特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター（盛岡市）【TEL：019-656-8145】
- (2) 県南広域振興圏
特定非営利活動法人芸術工房（北上市）【TEL：0197-64-7567】
- (3) 沿岸広域振興圏
いわて文化支援ネットワーク（盛岡市）【TEL：019-656-8145】
- (4) 県北広域振興圏
久慈地域：特定非営利活動法人やませデザイン会議（久慈市）【TEL：0194-61-3229】
二戸地域：二戸市芸術文化協会（二戸市）【TEL：0195-23-7111】

平成28年度における「岩手県文化芸術振興指針」実施効果の検証について

■主な施策方向 1 日常生活を豊かにする文化芸術情報の発信

評価項目の概況	<ul style="list-style-type: none"> ○ インターネット利用を始めとする ICT 利活用が全年代的に浸透している中、本県においても行政情報誌、生活情報誌に加え、ホームページ、SNS などで日常的に文化芸術に触れ、情報収集が図られている。 ○ 多様な手段を活用した魅力ある文化芸術情報の発信
今後の課題 方向性等	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページや SNS、各種情報誌等を活用した文化芸術情報の発信強化

No	評価項目	参考指標等
1	岩手の文化芸術に関するホームページ、SNS、動画サイトなどが増え、あわせてフォローワーやアクセス数が増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県ホームページ「いわての文化情報大事典」訪問者数 H27：360,839人 H28：360,611人 ○ 「いわての文化情報大事典」Facebookフォローワー数 H27年度末：84件 H28年度末：123件 ※H29.8.1現在：145件
2	行政広報紙・生活情報誌などで、岩手の文化芸術情報が広く提供されているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県及び市町村広報紙における文化芸術情報の掲載状況 県広報紙：伝統工芸の紹介、世界遺産登録関連記事 市町村広報紙：文化財・郷土料理紹介、文芸コーナー、人材バンク登録制度の周知、催事情報など ○ 「いわての文化情報大事典」に掲載されている映像記録 郷土芸能、伝統工芸、祭り ○ インターネットでの映像記録の掲載状況 地域文化遺産ポータルサイト、無形文化遺産データベース、文化遺産オンライン、YouTubeなど
3	文化芸術の映像記録が計画的に行われ、広く県民が活用できる状態にあるか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いわての文化情報大事典」における掲載状況 伝統文化や生活文化、歴史文化、自然文化、文化財など本県の文化全般を網羅し、一体的に情報提供
4	文化芸術が個別ではなく、他の文化芸術、景観などと一体的に情報提供されているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県ホームページ「いわて平泉 世界遺産情報局」更新回数 H27：32回 H28：38回
5	平泉の文化遺産の構成資産などの文化財やそれらに込められた価値、理念について、市町村や関係団体等との連携及び協力により総合的に情報提供されているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いわての文化情報大事典」における掲載状況 生活文化情報紹介ページにおいて、郷土料理集のレシピ、民謡・わらべ唄等の音声データを掲載 ○ その他 県農業普及技術課において「食の匠」認定料理を冊子やホームページで紹介
6	生活文化分野における情報発信は、実践できるような紹介になっているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界文化遺産登録及び文化財指定等の件数 世界文化遺産登録：2件 (H23、H27に各1件) 県文化財指定件数：385件 (H28新規指定5件)
7	世界文化遺産登録、新規文化財指定件数などが増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立施設への来館者数 県立博物館 H27：40,258人 H28：44,968人 県立美術館 H27：46,680人 H28：44,313人 県民会館 H27：360,694人 H28：349,071人
8	文化芸術関係施設などへの入込数などが増えているか	

■主な施策方向2 文化芸術と県民との交流支援体制の整備

評価項目の概況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県文化芸術コーディネーターへの相談件数は、着実に増加している。 ○ 芸術祭や催事などによる発表や鑑賞の機会が継続して確保されている。 ○ 「いわて若者文化祭」や「いわてヤングフェスティバル」など、様々な分野で活動する若者が参加、発表するイベント等が実施されている。 ○ 平成27年度から新たにアートマネジメント研修を開催している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県文化芸術コーディネーターの各圏域内への浸透が不十分 ○ 若者が参加、発表するイベント等が県央圏域に集中 ○ 各地域において文化芸術に精通したマネジメントできる人材の育成
今後の方向性等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県文化芸術コーディネーターの周知の徹底 ○ 若者が参加、発表する場の県内各地への展開（例：県内各地で開催されるイベント等への「いわて若者文化祭」出演者の派遣など） ○ アートマネジメント研修の継続及び内容の充実

No	評価項目	参考指標等
1	各広域振興圏の県文化芸術コーディネーターの活動実績が増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県文化芸術コーディネーターへの相談件数 H27：280件 H28：435件 ※主な相談内容：活動の発表場所、活動団体の紹介依頼、イベント企画、助成金の相談など
2	文化芸術の催事数が増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内各市公立文化施設における催事数 H27：1,280件 H28：1,295件 ○ 県立文化施設における催事数 県立博物館 H27：212件 H28：284件 県立美術館 H27：137件 H28：152件 ○ 「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」文化プログラム数 301事業
3	各地域の文化芸術活動への参加者数・文化芸術活動団体数は増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 岩手芸術祭の来場者数 H27：26,380人 H28：26,467人 ○ 岩手県障がい者文化芸術祭の出演数及び来場者数 出演数 H27：354点 H28：301点 来場者数 H27：3,680人 H28：3,600人
4	各地域において、文化芸術を核とした地域振興体制ができているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県文化芸術コーディネーター委嘱団体 県央：NPO法人いわてアートサポートセンター 県南：NPO法人芸術工房 沿岸：いわて文化支援ネットワーク 県北（久慈）：NPO法人やませデザイン会議 県北（二戸）：二戸市芸術文化協会 ○ 県文化芸術コーディネーターへの相談件数（再掲） H27：280件 H28：435件
5	若者等が日頃培った文化芸術を発表する機会や活躍の場が増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 若者が参加、発表する主なイベント いわて若者文化祭、いしがきMUSIC FESTIVAL、いわてヤングフェスティバル、KESSEN ROCK FESTIVAL、いわてアートプロジェクトなど
6	各地域において、アートマネジメント力向上に向けた取組（研修会の開催やアートマネジャー育成事業など）が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ アートマネジメント研修開催状況 開催日：9/16 出席者数：32名 内容：講演、ワークショップ、交流会

■主な施策方向3 豊かな創造性の涵養と文化芸術活動への支援

評価項目の概況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次代を担う高校生などの文化活動や新進・若手芸術家の活動を支援することにより、人材が育成されている。 ○ 東日本大震災津波により被災した活動団体に対する支援が着実に進み、活動再開につながっている。 ○ 平泉などの世界遺産の価値・理念や適切な保存管理に対する理解や関心を高めることで、若い世代の郷土に対する誇りや愛着を醸成している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新進・若手芸術家の育成に係る支援の継続実施 ○ 東日本大震災津波により活動が困難になっっている文化芸術団体に対する支援の継続実施 ○ 平泉などの世界遺産の価値・理念の次世代への継承
今後の方向性等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次世代を担う若手の更なる育成支援策の検討 ○ 被災した文化芸術団体に対する活動支援策の検討 ○ 将来にわたり平泉などの世界遺産を確実に守り伝えるための環境整備

No.	評価項目	参考指標等
1	公共的支援資金の活用が増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県文化振興基金の助成件数 H27: 30件 14,829千円 H28: 39件 13,003千円
2	学校教育における文化芸術鑑賞の機会が増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化庁及び青少年文化センター等の芸術事業実施学校数 芸術家の派遣事業 巡回事業 青少年劇場本公演 ” ” 小公演 芸術家の派遣事業(震災分) H27: 2校 H28: 15校 H27: 14校 H28: 20校 H27: 135校 H28: 134校 H27: 3校 H28: 2校 H27: 151件 H28: 104件(※校外も含む)
3	新進・若手芸術家が育ち、県内外で新たに活動している者が現れているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県高等学校文化連盟セミナーサポーター開催部門数 H27: 17部門 H28: 17部門 ○ 文化振興基金助成事業「いわての芸術家等派遣事業(旧新進・若手芸術家等派遣事業)」の派遣学校数 H27: 9校 H28: 12校
4	地理的条件などによる不利益を解消する事業が展開され、鑑賞者数が増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「青少年劇場」のうち、へき地指定3級以上の学校における鑑賞者数※3級以上の学校数 H27: 7校、H28: 5校 青少年劇場本公演 H27: 7校 76人 H28: 5校 42人 ” ” 小公演 H27: 1校 8人 H28: 0校 0人
5	学校教育において地域と連携した伝統文化への取組が強化されるとともに、活性化しているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伝統芸能の取組を実施している学校割合(隔年調査) 小学校 H26: 235校 H28: 242校(全体の72.9%) 中学校 H26: 64校 H28: 62校(全体の37.8%)
6	地域の伝承活動を発表する機会が増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民俗芸能フェスティバル出演団体数及び鑑賞者数 H27: 6団体 1,000人 H28: 7団体 1,100人 ※県民俗芸能団体協議会からは、震災以降、沿岸被災地の伝統芸能団体が県内外で発表する機会が増えているとの声
7	平泉の文化遺産に対する県民等の理解と関心が深まり、フォーラムなどの参加者数が増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種県民向けのイベントの参加者数 平泉文化フォーラム H27: 450人 H28: 400人 平泉授業の受講者数 H27: 1,144人 H28: 1,349人 平泉世界遺産の日ソソボゾム H27: 200人 H28: 250人
8	沿岸被災地において、活動を再開している文化芸術団体や活動者は増えているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県文化振興基金被災地備品整備事業実施団体数 H27: 87団体 H28: 91団体(累計) ○ 県郷土芸能復興支援事業実施団体数 H27: 20団体 H28: 22団体(累計)
9	学校教育や地域活動の中で、地域の景観への愛着や誇りを育むための取組・活動が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> ○ 景観学習実施学校数 H27: 22校 H28: 23校

■主な施策方向4 文化芸術活動の担い手を支援するネットワークの形成

評価項目の概況	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から文化芸術活動支援ネットワーク会議を各圏域で開催。文化芸術団体に加え、観光・教育など文化芸術団体以外の団体も参加し、情報共有が図られている。 文化芸術活動支援ネットワーク会議に参加する団体が相互に連携・協力し合う関係の構築 県文化芸術コーディネーターを中心とした文化芸術活動支援ネットワーク運営の充実及び同コーディネーターの活動支援
課題	
今後の方向性等	

No.	評価項目	参考指標等
1	文化芸術活動に対する支援ネットワークが各地域でできているか	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術活動支援ネットワーク会議の開催回数 H28：県内6箇所各2回開催 文化芸術活動支援ネットワーク会議の参加者数及び参加団体数 参加者数(延べ) H28：144人 参加団体数 H28：95団体 観光・産業イベント等における文化芸術団体の活用状況 北上市：希望郷いわて団体・希望郷いわて大会、浮牛城まつり など
2	各地域の文化芸術活動支援ネットワークに参加している団体数は増えているか	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術施設の連携状況 宮古市民文化会館(宮古市)、森のアリーナ(岩手町)、が連携し、地域創造助成金を活用した「地域の文化・芸術活動助成事業 連携プログラム」を実施
3	文化芸術団体と他の分野の団体による協働が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> 県内に主たる事務所を置く「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」を行うNPO法人数及びその活動状況 H27：241団体 H28：251団体
4	文化芸術施設相互の連絡調整が強化され、より効果的な施設活用ができているか	<ul style="list-style-type: none"> 企業メセナによる文化芸術団体等を対象とした助成事業等 アサヒグループコミュニケーション助成事業(被災地の郷土芸能活動支援)、ウイーンズリアル&サントリー音楽復興基金(クラシックコンサートの開催)など 文化イベントへの協賛 NEXCO東日本(中尊寺レクイエム・コンサート)、マース(演歌・民謡の祭典)、真如苑(残花-1945さくら隊 園井恵子-)
5	NPO法人等、文化芸術の支援を行う団体が増えているか	<ul style="list-style-type: none"> 企業・事業所行動調査(県政策地域部が隔年実施)における「従業者が行う文化芸術活動への支援」の状況 H26：13.8% H28：13.5% ※調査対象事業所数1,000件
6	文化芸術活動への企業メセナが増えているか	
7	文化芸術活動への理解が深まり、雇用者等への勤務上の配慮が増えているか	
8	行政機関、住民、団体等が協働し、地域住民主体の景観形成・まちづくり活動が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> 景観づくりに取り組む地区数 H27：37件 H28：37件

文化芸術振興基本法の一部改正等について

1 文化芸術振興基本法の一部改正（平成29年6月23日公布・施行）

(1) 目的

ア 文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むこと

イ 文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用すること

(2) 背景

ア 少子高齢化やグローバル化の進展など社会の状況が著しく変化する中で、上記関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術政策の展開がより一層求められていること

イ 文化芸術の祭典でもある2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、文化芸術の新たな価値を世界へ発信・創出する好機であること

(3) 改正概要

ア 題名等

法律の題名を「文化芸術基本法」に改めること。

イ 総 則

文化芸術に関する施策の推進に当たっては、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、各関連分野の施策との有機的な連携が図られるよう配慮することとしたこと。

ウ 文化芸術推進基本計画等

(ウ) 政府は、従来の「文化芸術の振興に関する基本的な方針」に代えて「文化芸術推進基本計画」を定めなければならないとしたこと。

(イ) 地方公共団体は、同計画を参酌して、その地方の実情に即した「地方文化芸術推進基本計画」を定めるよう努めるものとしたこと。

エ 文化芸術に関する基本的施策の拡充

食文化や芸術祭、人材育成、高齢者・障害者の支援等を追加したこと。

2 障害者による文化芸術活動の推進に関する法律案

別添「障がい者による文化芸術活動の推進に関する法律案イメージ」参照。

※ 基本的施策について、国は文部科学大臣及び厚生労働大臣が定める基本計画で具体化することとされる一方で、地方公共団体は基本計画策定が努力義務とされる模様。

障害者による文化芸術活動の推進に関する法律案イメージ

法案の背景・目的 (1条)

文化芸術は、芸術を創造・享受する者の障害の有無にかかわらず、心の豊かさや相互理解をもたらす文化芸術振興基本法。障害者基本法の基本的な理念
 障害者による文化芸術活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進
 → 障害者の個性と能力の発揮及び社会参加を促進

基本理念 (3条)

- 障害の有無にかかわらず、文化芸術を鑑賞・参加・創造することができるよう、障害者による文化芸術活動を幅広く促進
- 専門的な教育に基づいて人々が本来有する創造性が発揮された作品が高い評価を受け、その中心が障害者の作品であること等を踏まえ、障害者による芸術上価値が高い作品等の創造への支援を強化
- 障害者による文化芸術活動に係る地域での作品等の発表、交流等を促進し、心豊かで住みよい地域社会の実現に寄与
- 障害者による文化芸術活動の推進に関する施策については、次のことが行われなければならない
 ・ 障害者による文化芸術活動に特化した措置を実施
 ・ 文化芸術の振興に関する一般的な措置の実施における特別の配慮

基本的施策

- ① 文化芸術の鑑賞の機会の拡大(9条)
 ・ 字幕、音声ガイド、手話等での説明の提供促進
 ・ 施設のアダプトリ=化等の障害の特性に応じた鑑賞しやすい環境の整備促進 など
- ② 文化芸術の創造の機会の拡大(10条)
 ・ 社会福祉施設、学校等で必要な支援を受けつつ文化芸術を創造することができる募集整備 など
- ③ 文化芸術の作品等の発表の機会の確保(11条)
 ・ 公共施設における発表のための催しの開催促進
 ・ 芸術上価値が高い作品等の海外発信 など
- ④ 芸術上価値が高い作品等の評価等(12条)
 ・ 作品等の発掘・専門的な評価を行う環境の整備
 ・ 保存場所の確保 など
- ⑤ 権利保護の推進(13条)
 ・ 著作権等の制度に関する普及啓発
 ・ 著作権保護等に関するガイドラインの公表
 ・ 契約締結時の障害者への支援の充実 など
- ⑥ 芸術上価値が高い作品等の販売等に係る支援(14条)
 ・ 企画、対価の授受等に関する事業者との連絡調整を支援する体制の整備 など
- ⑦ 文化芸術活動を通じた交流の促進(15条)
 ・ 小学校等を訪問して行う障害者の文化芸術活動の支援
 ・ 特別支援学校と他学校の相互交流の場の提供
 ・ 国際的な催しへの参加促進 など
- ⑧ 相談体制の整備等(16条)
 ・ 文化芸術活動について障害者、その家族等からの相談に応じる地域ごとの身近な体制の整備 など
- ⑨ 人材の育成等(17条)
 ・ ①の説明・環境整備、②の支援、④の評価、⑥の相談等に関わる人材の育成・確保のための研修、大学等における当該育成に資する教育の推進 など
- ⑩ 情報の収集等(18条)
 ・ 国内外の取組に関する情報収集・整理・提供 など
- ⑪ 関係者(国・地方公共団体、関係団体、大学、産業界等)の連携協力(19条)

※ ⑩を除き、地方公共団体も国と同様に施策を講ずる。

文部科学大臣・厚生労働大臣が定める基本計画で具体化(7条)、地方公共団体は計画策定の努力義務(8条)

【推進体制】

文化庁、厚生労働省、経済産業省等の関係行政機関の職員による「障害者文化芸術活動推進会議」を設置 → 連絡調整に際して意見を聴く学識経験者の会議を設置

【財政措置等】

政府に対し、施策を実施するために必要な財政上の措置その他の措置の実施を義務付け(6条)

岩手県文化・スポーツ振興戦略について

第1章 基本的な考え方

1 策定の趣旨

- 岩手には、文化遺産や宮澤賢治などの文学・伝統文化、ラグビーやホッケーなどスポーツの風土、新渡戸稲造などの先人の思想など、多様な資源があり、そこに住む人の心と調和した真の豊かさがあること。
- ラグビーワールドカップ2019TMの釜石開催や「平泉の文化遺産」の拡張登録、「縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けた取組などの機会を生かし、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を通じて得た、競技力の向上や“おもてなし”などの遺産（レガシー）を、次世代につなげていくことが求められていること。
- 文化・スポーツには、岩手の未来を切り拓く力があること。文化・スポーツを通じて、地域の誇りを高め、愛着を深めるなど、地域社会の一体感や活力の向上につながる。
- 文化・スポーツが有する多面的価値により、観光産業の振興やスポーツ産業など幅広い分野への波及効果が期待され、東京一極集中の是正をはじめとする東京と地方の関係を再編する起爆剤の一つとなり得る可能性があること。県民が日常的に文化・スポーツに親しむこと等を通じて、県民一人ひとりの個性が輝き、創造性が発揮される社会の実現が期待されること。

この戦略は、文化・スポーツを巡る様々な潮流を的確に捉え、平成33年度までの概ね5年間における岩手県の文化・スポーツ振興のための方策を具体的に示すもの。

2 戦略の位置付け

- 「いわて県民計画」第3期アクションプランの政策推進目標の推進やその先の、あるべき未来の姿の実現に向け、平成33年度までの概ね5年間に、県として戦略的に取り組む施策の指針であり、「岩手県ふるさと振興総合戦略」や「岩手県文化芸術振興指針」などの関係計画等を踏まえたもの。

3 目指す姿

個性と創造性あふれる 「ココロパワー・カラダパワー いわて」

文化・スポーツは、日常生活に潤いや活力を与えるだけでなく、私たちが抱く夢や希望を実現し、自己表現のツールとして欠くことができないもの。また、一人ひとりの個性と文化・スポーツが有する多面性や広がりが融合することにより、人と人、人とふるさとのつながりという社会的な力となるとともに、観光・スポーツ産業・健康医療産業・文化芸術産業などの経済的な力を生み出す可能性を有している。

こうした文化・スポーツのパワーにより、創造性にあふれ、多様な個性を受容し尊重する岩手をつくっていく。

第2章 戦略

(凡例) ■は「新規」、□は「組替新規」又は「継続」

戦略1 国体・大会のレガシーの継承と従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組

- 【重点施策1】ラグビーワールドカップ2019TM釜石開催の成功と大会後のレガシーを見据えた取組の推進
 - 成功に向けた開催準備 □キャンプ地等の県内誘致 □選手の発掘・育成、普及活動
- 【重点施策2】東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた地方が主役となる取組の推進
 - キャンプ地誘致、ホストタウン登録支援 □PR活動の展開 ■岩手の文化の魅力を国内外に発信
- 【重点施策3】ポツナカルチャーなど従来の文化の枠を超えた取組の推進
 - いわて若者文化祭の開催 □マンガ、ゲーム等の活用 □超人スポーツなど新しいスポーツの発信
- 【重点施策4】アール・ブリュットに対する県民の理解増進及び活動支援
 - 県立美術館等での作品展示 ■アーカイブの掘り起し ■アール・ブリュットによるまちづくり

戦略2 県民の心を豊かにする文化芸術の振興

- 【重点施策1】文化芸術に親しむ機会の提供や文化芸術を生かした地域づくりの推進
 - 岩手芸術祭巡回展の拡充開催 □文化芸術の全国発信・機運醸成 □歴史・文化芸術を生かした地域おこし
- 【重点施策2】未来の文化芸術を担う人材の育成
 - 来県する一流芸術家との交流機会の提供 □文化芸術団体と児童等との交流を通じた後継者育成
- 【重点施策3】文化芸術活動を支える環境の整備
 - 文化芸術情報の発信強化 □文化芸術コーディネーターの周知 ■障がい者の創作活動機会の確保
- 【重点施策4】世界文化遺産の価値や理念の発信、普及
 - 世界遺産の価値等の発信・普及イベントの開催 ■ガイダンス施設の整備 □世界遺産授業の実施

戦略3 県民が元気になるスポーツの振興

- 【重点施策1】一人ひとりが楽しむことができるスポーツ社会の推進
 - 運動・スポーツへの参加機運の醸成 ■スポーツ医・科学の視点を取り入れた運動習慣等の定着
- 【重点施策2】競技力向上とトップアスリートの育成
 - トップアスリートの育成・活動支援 □競技力向上を担う指導者養成 □アスリートの県内定着支援
- 【重点施策3】スポーツ活動を支える環境の整備
 - 指導者やボランティアが継続して活動できる取組の推進 □障がい者スポーツの推進・理解促進
- 【重点施策4】トップスポーツチームとの連携やスポーツツーリズムの振興による地域活性化の推進
 - トップスポーツチームによるスポーツ教室開催 ■いわてスポーツコミッション(仮称)の設置検討

第3章 ライフステージごとの姿

- 第2章の3つの戦略をもとに、県民一人ひとりのライフステージに着目し、それぞれのステージごとに見た期待する県民像を、乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期の4つに分けて整理。

第4章 戦略の推進

1 推進体制

- 文化・スポーツに関する事務の知事部局への一元化を行うとともに、その事務を担う専担組織を設置。
- 市町村・関係団体をはじめとした多様な主体と連携を図りながら、庁内に各部局長等を構成員とする「岩手県文化・スポーツ事業推進本部(仮称)」を設置するなど、部局横断的な取組を戦略的に推進。

2 多様な主体との協働

- 文化・スポーツに関する専門的な知見を有する各種団体からの意見等を県の施策に反映。
- 各主体間の交流・協働・連携体制の充実を図り、長期的な視点で人材育成を推進。

個性と創造性あふれる

「ココロパワー・カラダパワー いわて」

を目指して

平成 29 年 3 月

岩 手 県

<目 次>

第1章 基本的な考え方

1 策定の趣旨	1
2 戦略の位置付け	2
3 目指す姿	3
4 戦略の方向性	4

第2章 戦略

戦略1 国体・大会のレガシーの継承と従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組

1 ラグビーワールドカップ 2019™ 釜石開催の成功と大会後のレガシーを見据えた取組の推進	5
2 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた地方が主役となる取組の推進	6
3 ポップカルチャーなど従来の文化の枠を超えた取組の推進	6
4 アール・ブリュットに対する県民の理解増進及び活動支援	7

戦略2 県民の心を豊かにする文化芸術の振興

1 文化芸術に親しむ機会の提供や文化芸術を生かした地域づくりの推進	8
2 未来の文化芸術を担う人材の育成	9
3 文化芸術活動を支える環境の整備	9
4 世界文化遺産の価値や理念の発信、普及	10

戦略3 県民が元気になるスポーツの振興

1 一人ひとりが楽しむことができるスポーツ社会の推進	11
2 競技力向上とトップアスリートの育成	12
3 スポーツ活動を支える環境の整備	12
4 トップスポーツチームとの連携やスポーツツーリズムの振興による地域活性化の推進	13

第3章 ライフステージごとの姿

1 乳幼児期	14
2 青少年期	15
3 成人期	15
4 高齢期	16

第4章 戦略の推進

1 推進体制	17
2 多様な主体との協働	18

第1章 基本的な考え方

1 策定の趣旨

平成21年に策定した「いわて県民計画」は、長期的な視点に立った取組を進めることにより、県民一人ひとりが、生き生きと働き、岩手で安心して暮らし、自分の希望に向かって行動することにより、希望あふれる岩手を実現していくことを目指しています。

これまで県では、「いわて県民計画」に基づき、「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現を目指して、文化芸術やスポーツライフの振興に取り組んでいますが、本格的な人口減少・少子高齢化社会を迎え、これまで受け継がれてきた伝統文化の継承が困難になるなどの課題が顕在化しています。

一方、世界や日本全体の潮流を見ると、グローバル化の進展により社会経済情勢が大きく変化する中で、これまで受け継がれてきた豊かな自然、地域性あふれる生活文化・伝統文化、人と人とのふれあいなど、ローカルな視点への関心が高まるとともに、従来の価値観に捉われない多様な考え方が表現され、受容される社会的土壌が広がってきています。

また、価値観や幸福感についても、物質的あるいは経済的な豊かさのみが追求される段階から、心の豊かさが尺度の一つとして尊重され始めるなど、各ライフステージにおける文化・スポーツの充実に対するニーズの多様化がみられます。地域が持つ充実した環境やそれらを守り育む人といった多様な地域資源が、地域経済ひいては日本全体の成長の切り札の一つとして注目されています。

岩手には、平泉などの歴史的文化遺産や、宮沢賢治・石川啄木に代表される文学世界、神楽などの伝統文化、釜石のラグビーや二戸のカーリング、岩手のホッケーなどにみられる地域スポーツの風土、新渡戸稲造・後藤新平・大島高任などの先人の思想と行動、県民の真面目さや勤勉さなど多様なソフトパワーの源があり、そこに住む人の心と調和した真の豊かさがあります。

岩手の文化・スポーツの未来には、ラグビーワールドカップ2019™の釜石開催や「平泉の文化遺産」の拡張登録、「北海道・北東北の縄文遺跡群（御所野遺跡）」の世界遺産登録に向けた取組など、大きな可能性が広がっています。こうした機会を生かし、さらに魅力ある岩手を実現していくためには、岩手のソフトパワーを国内外に広く発信していくとともに、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を通じて私たちが得た、県勢の躍進による競技力の向上や県民総

参加での“おもてなし”などの貴重な遺産（レガシー）を、次の世代につなげていくことが求められています。

文化・スポーツには、岩手の未来を切り拓く力があります。今、県内では、若者・女性による伝統文化活動やスポーツ分野での世界的な活躍、次代を担う若者たちによる新しい文化芸術の創造など、様々な場面で若者・女性の活躍と文化・スポーツ振興の共振性がみられます。文化・スポーツを通じて、一人ひとりや集団、地域がつながりを広め、深めていくことによって、相互の新たな連携を促進するとともに、共に努力し、達成感を分かち合うことや、地域の誇りを高め、愛着を深めるなど、地域社会の一体感や活力の向上につながっていきます。

さらに、文化・スポーツが有する多面的価値により、個人の内面的な充実に加え、交流人口の拡大による観光産業の振興やスポーツ産業、コンテンツ産業(*)など幅広い分野への波及効果が期待されます。このような取組により、東京一極集中の是正をはじめとする東京と地方の関係を再編する起爆剤の一つとなり得る可能性を持っています。全ての県民が日常的に文化・スポーツ活動に親しみ、岩手の豊かな時間と空間を体感できる環境づくりを進めていくことにより、一人ひとりの個性が輝き、創造性が発揮される社会の実現が期待されます。

この戦略は、文化・スポーツを巡る様々な潮流を的確に捉え、平成33年度までの概ね5年間における岩手県の文化・スポーツ振興のための主な方策を示すものです。

(*) 映像（映画、アニメ）、音楽、ゲーム、書籍等の制作、流通を担う産業の総称

2 戦略の位置付け

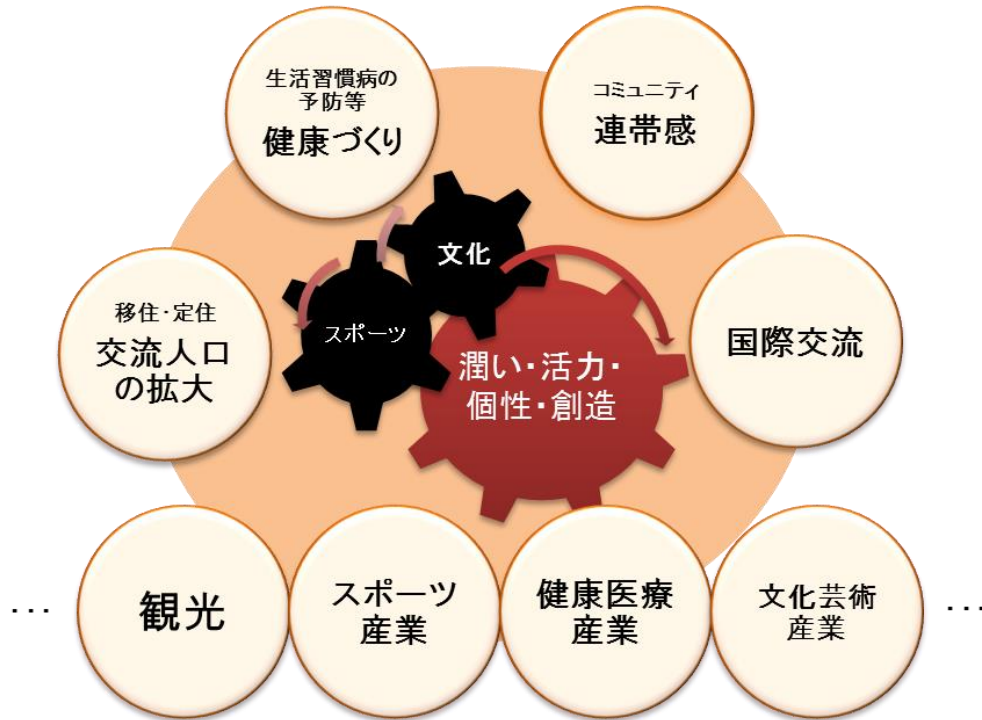
この戦略は、「いわて県民計画」第3期アクションプランの政策推進目標の推進やその先のあるべき未来の姿の実現に向け、平成33年度までの概ね5年間に、県として戦略的に取り組む文化・スポーツ施策の指針であり、「岩手県ふるさと振興総合戦略」や「岩手県文化芸術振興指針」などの関係計画等を踏まえたものです。

3 目指す姿

この戦略の推進により目指す姿は、次のとおりです。

《目指す姿》

個性と創造性あふれる「ココロパワー・カラダパワー いわて」



文化・スポーツは、日常生活に潤いや活力を与えるだけでなく、私たちが抱く夢や希望を実現し、自己表現のツールとして欠くことができないものです。また、一人ひとりの個性と文化・スポーツが有する多面性や広がりや融合することにより、人と人、人とふるさとのつながりという社会的な力となるとともに、観光・スポーツ産業・健康医療産業・文化芸術産業などの経済的な力を生み出す可能性を有しています。

こうした文化・スポーツのパワーにより、創造性にあふれ、多様な個性を受容し尊重する岩手をつくっていきます。

4 戦略の方向性

この戦略では、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を通じて私たちが得た自信や県民意識の高まりなどの遺産(レガシー)を岩手の未来に継承していくとともに、豊かな自然や地域性、人と人との絆などを基盤に育まれてきた文化・スポーツを発展させ、さらには新しいジャンルへの挑戦へと拡張させていくため、県民運動的な盛り上げを図りながら、第2章に掲げる「3つの戦略」を推進していきます。

戦略1として「国体・大会のレガシーの継承と従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組」、戦略2として「県民の心を豊かにする文化芸術の振興」、戦略3として「県民が元気になるスポーツの振興」の3つを柱に、政策的にこれまで未着手であった施策や、文化・スポーツと地域づくり、県民の健康など複数の分野にまたがる施策、年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、多くの県民が関わり楽しむことができる施策など、これまで実施してきた文化・スポーツ施策の充実はもちろん、地域の一体感の醸成や持続的な地域づくりの原動力となる施策にも取り組んでいきます。

また、第3章では、より身近に文化・スポーツを感じていただき、県だけではなく、市町村や関係団体等が一体となって目指す姿を実現していくため、「乳幼児期」「青少年期」「成人期」「高齢期」それぞれのステージごとの行動指針を示します。

さらに第4章では、この戦略の推進体制や多様な主体との協働の進め方などを示します。

第2章 戦略

概ね5年後の目指す姿を実現するため、今後展開する3つの戦略と、戦略に沿って重点的に実施する12の施策は、次のとおりです。

戦略1 国体・大会のレガシーの継承と従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組

これまで県では、地域の活性化や一体感の醸成に向け、岩手の様々なソフトパワーを県民が共有すべき“岩手の誇り”として磨き上げ、発信してきました。また、今般の希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を経験して生まれた自信、地域への誇り、人と人とのつながり、心の豊かさは、岩手の未来をつくる礎ともなりました。

今のタイミングを好機と捉え、国体・大会のレガシーを継承するとともに、2019年のラグビーワールドカップ™や2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた交流人口の拡大、ポップカルチャーやアール・ブリュットの振興など、従来の枠を超えた文化・スポーツへの取組を積極的に推進していきます。

【重点施策1】

ラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功と大会後のレガシーを見据えた取組の推進

- ラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功に向け、官民からなるオール岩手での推進体制を構築し、釜石市とともに企業、関係団体等と連携のうえ同大会の開催準備を進めます。
- ラグビーワールドカップ2019™出場チームに係る公認チームキャンプ地等の県内誘致を関係市町村、競技団体等と連携のうえ推進し、交流人口の拡大や国内外に向けた地域の魅力・情報の発信を図ります。
- ラグビーワールドカップ2019™や様々な国際大会などで今後の活躍が期待できる選手の発掘・育成を行うとともに、子どもや女性を含む多くの県民がラグビーに親しむことができる普及活動を展開し、大会成功に向けた機運醸成を図ります。
- ラグビーワールドカップ2019™釜石開催を通して培われたスポーツ環境を生かし、県民のスポーツ活動への更なる参画を促進し、地域に根ざしたスポーツ振興を進めます。

【重点施策2】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた地方が主役となる取組の推進

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ地誘致を関係市町村、競技団体等と連携のうえ推進するとともに、市町村のホストタウン登録を支援・推進し、交流人口の拡大や国内外に向けた地域の魅力・情報発信、市町村の国際化を促進します。
- 「復興五輪」を理念に掲げる東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の各種PR活動を組織委員会や東京都、国、経済界協議会等と一体となって展開し、県内における開催機運の醸成を図るとともに、国内外に本県の復興の姿を広く発信します。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムの一環として、岩手の文化の魅力を国内外に発信するとともに訪日外国人に岩手の文化を紹介するイベントを実施し、観光など産業振興につなげます。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への参画等により得られた経験やつながりを礎に、国内外とのスポーツ、文化、人的交流を進めます。

【重点施策3】

ポップカルチャーなど従来の文化の枠を超えた取組の推進

- 「いわて若者文化祭」で映像、ファッション、SF等のイベントを併催するなど、新しい切り口による文化芸術の振興や国内外への情報発信を図ります。
- マンガの舞台となった地域への聖地巡礼や観光ツアーの造成、位置ゲーム(*1)利用者の本県歴史観光スポットへの誘客、「怪フォーラム(*2)」の開催など、マンガや妖怪文化、ゲームを活用した情報発信や交流人口の拡大等を図ります。
 - (*1) 携帯電話端末に付随している全地球測位システムを利用したゲーム
 - (*2) 世界妖怪協会が「怪遺産」（妖怪文化の普及に貢献した地域）として認定した鳥取県境港市、徳島県三好市山城町、本県遠野市が所在する3県によるそれぞれの伝承文化を地域の活性化へ生かすことを目的としたイベント
- 年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず、県民一人ひとりがスポーツに取り組む新しい地域社会の創出に向け、若者を中心として自由な発想による岩手発の新しい「超人スポーツ(*)」を考案し、県内や国内外へ広く発信します。
 - (*) 最新の研究分野である「人間拡張工学」に基づき、スポーツと文化、科学技術の融合により人間の能力を拡張し競技する新しいスポーツ

- 文化芸術活動拠点となるアートセンターの整備など、既存の枠組みにとらわれない創造性あふれる発想が生まれる環境づくりを進めるとともに、アート展示やイベント、ワークショップの開催など多様なチャンネルの提供により、県民の文化芸術活動を支援します。

【重点施策4】

アール・ブリュットに対する県民の理解増進及び活動支援

- 県内のアール・ブリュット(*)作品を県立美術館や民間施設等で展示・保管するとともに、デジタルアーカイブ化しホームページ等で世界に発信するなど、アール・ブリュットの理解促進及び作品の保護を図ります。
(*) 「生の芸術」と訳され、美術教育や美術的なスタイルからは何の影響も受けていない、全く個人的かつ独創的な表現
- 商店街のショーウィンドウへのアール・ブリュット作品の展示やアール・ブリュットを活用したポスター等の掲示など、県民がアール・ブリュットの価値を享受し、まちなかにアール・ブリュットが溶け込んでいくアール・ブリュットのまちづくりを進めます。
- 県内におけるアール・ブリュットの更なる振興を図るため、アール・ブリュットに関する相談支援、情報発信、人材育成等への対応を一元的に実施する拠点の設置に向け検討します。
- アーティストの掘り起しやアトリエ等創作活動の場の確保、著作権等の権利擁護を図るなど、全国で先進的に活動している他地域とも連携を図りながら、アール・ブリュットを優れた作品として世に出していくための様々な支援を行います。

戦略2 県民の心を豊かにする文化芸術の振興

本県は、平泉や橋野鉄鉱山の世界文化遺産をはじめ、数多くの歴史的文化財や民話、神楽、祭りなど多様な伝統文化に恵まれています。また、宮沢賢治や石川啄木、舟越保武、萬鉄五郎など多くの文化芸術の先人たちを輩出する風土もあります。

こうした岩手の文化的な魅力を生かし、県内各地での文化芸術イベントの開催等によりあらゆる世代の県民が文化芸術に親しむ機会を提供するほか、文化芸術団体と児童生徒との交流等を通じた未来の文化芸術を担う人材育成や、文化芸術コーディネーターの配置等による地域の文化芸術活動の支援などを推進していきます。

世界遺産の価値、理念など地域の宝である文化財の魅力や岩手が誇る文化芸術の力で、ふるさとへの理解や愛着が深まる地域づくりを進めていきます。

【重点施策1】

文化芸術に親しむ機会の提供や文化芸術を生かした地域づくりの推進

- 岩手芸術祭巡回展の拡充開催やまちなか、農山漁村での展示会、体験イベントの開催など、年齢、性別、障がいの有無に関わらず、県民が身近な場所で手軽に文化芸術活動を発表・鑑賞する機会を創出します。
- 全国規模の文化芸術イベント等により、岩手の文化芸術を全国に発信するとともに県民の文化芸術活動への関心や参加の機運を高めます。
- 文化財ガイドの養成や郷土芸能の鑑賞・体験イベントの実施など、地域の歴史・文化芸術を生かした地域おこしを推進します。
- 被災地をはじめとする県内各地の祭りや伝統行事、伝統芸能など伝統文化を保存、継承する取組を支援し、地域コミュニティの再生・強化につなげます。

【重点施策2】

未来の文化芸術を担う人材の育成

- 国内外の優れた文化芸術を鑑賞する機会や来県する一流の芸術家と交流する機会を提供するなど、子どもたちが文化芸術への理解を深める取組を推進します。
- 郷土芸能団体をはじめとする文化芸術団体と児童生徒との交流や岩手芸術祭と岩手県高等学校総合文化祭との連携等を通じた後継者育成を推進します。
- 文化芸術関係者を対象としたアートマネジメント研修を開催し、多様な専門領域で活躍する人材を育成します。

【重点施策3】

文化芸術活動を支える環境の整備

- 県文化芸術ホームページ「いわての文化情報大事典」のデータベース機能を高めるとともに、SNSや各種情報誌等を積極的に活用するなど、文化芸術情報の発信を強化します。
- 各広域振興圏に設置した「岩手県文化芸術コーディネーター」の周知や体制強化を図るなど、文化芸術活動について文化芸術団体や地域住民等が気軽に相談し、積極的に活動できる環境を整えます。
- 障がい者を対象とした芸術作品創作のワークショップの開催やアトリエ等創作活動場所の確保、サービス事業所への指導者派遣など、障がい者が気軽に創作活動を行う機会を確保します。

【重点施策4】

世界文化遺産の価値や理念の発信、普及

- 「平泉の文化遺産」「明治日本の産業革命遺産（橋野鉄鉱山）」や世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群（御所野遺跡）」が有する価値及び理念について、県内外に広く発信・普及する文化芸術イベントを開催します。
- 「平泉の文化遺産」について理解を深め、適切な保存を行うことにより将来の世代へ継承していくため、総合的な学びの場として、ガイダンス施設を整備します。
- 毛越寺や橋野鉄鉱山など、これまで紹介が難しかった世界遺産の当時の模様を現実的に体験できるよう、VR(*)技術の活用を検討します。
(*) バーチャル・リアリティ（仮想現実）の略。コンピューターを用いて人工的な環境を作り出し、あたかもそこにいるかのように感じさせること。
- 小中学校において世界遺産出前授業を継続して実施するなど、世界遺産の価値や理念を理解する人材を育成します。

戦略3 県民が元気になるスポーツの振興

本県では、平成28年に希望郷いわて国体・希望郷いわて大会が開催され、県内の多くの市町村で競技が行われました。また、今後、平成31年には、ラグビーワールドカップ2019™が釜石市で開催され、県民のスポーツに対する機運がこれまでになく高まることが期待されています。

これらのイベントを一過性に終わらせることなく、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、県民一人ひとりがより身近にスポーツを楽しむことができる環境を整備するとともに、競技力の更なる向上や障がい者を含めたトップアスリートの育成などにより、スポーツの魅力を実感し県民の心と体が元気になるスポーツ振興を推進していくほか、トップスポーツチームとの連携やスポーツツーリズムの振興による地域活性化も推進していきます。

また、スポーツによる障がい者の更なる社会参加を促進するため、障がい者スポーツを一層推進していきます。

【重点施策1】

一人ひとりが楽しむことができるスポーツ社会の推進

- 幼児から高齢者まであらゆる年代で運動・スポーツへの参加機運の醸成を図る県民運動を展開し、運動習慣の定着化と生活習慣病・介護予防等につながる健康づくりを支援します。
- 市町村との連携や相互のネットワーク化等により総合型地域スポーツクラブの活動の活性化を図り、県民が障がいの有無・年齢・体力・競技レベルに応じて、地域で気軽にスポーツに取り組む環境を構築します。
- スポーツ医・科学の視点を取り入れた遊びやレクリエーションを通じて幼児・児童の正しい体の動き方や運動習慣の定着を図るなど、生涯にわたって運動・スポーツを楽しむための基礎づくりに取り組みます。

【重点施策2】

競技力向上とトップアスリートの育成

- スポーツ関係団体やアスレティックトレーナー(*)等の専門家と連携し、障がい者を含めたトップアスリートの育成や活動を支援することにより、オリンピックやパラリンピックなど国際大会で活躍する選手の輩出を目指します。
(*) スポーツ現場で選手が受傷したときの応急処置や傷害の評価、復帰までの手順を考えたり、傷病の予防のために働くスタッフ
- 希望郷いわて国体・希望郷いわて大会により高められた本県競技力の次世代への継承に向け、国体・大会で確立された一貫指導体制等を維持しつつ、継続的に指導者研修会やトップコーチの活動支援を行うなど競技力向上を担う指導者を育成します。
- スポーツ医・科学を活用した取組の充実と普及を図り、本県アスリートの強化につなげます。
- アスリートの県内就職を支援するなど、アスリートの招へいや定着を進めるとともに、各競技団体等と連携しながら、本県全体の競技力を維持発展させるための取組を推進し、県内スポーツの競技力向上を図ります。

【重点施策3】

スポーツ活動を支える環境の整備

- スポーツ推進委員の研修を充実させ、地域スポーツ活動等のコーディネーターとして育成・活用するとともに、地域のニーズを踏まえたスポーツ活動等の普及・活性化を図ります。
- 国体・大会を契機として養成された地域の指導者やボランティアが、国体・大会後も地域のスポーツ活動を支える立場で活躍できる取組を推進します。
- 障がい者スポーツ推進組織の設立や障がい者スポーツ指導員・スポーツボランティアの養成、講演会・スポーツ教室・競技大会等の開催に向けた支援を行うなど、障がい者スポーツの一層の推進と理解促進を図ります。
- スポーツを通じた県民の健康づくりと障がい者を含めた選手や指導者の育成及び県内スポーツの競技力の向上を効果的・効率的に図ることができるよう、スポーツ医・科学機能の拠点の設置に向け検討するなどスポーツの環境づくりを進めます。

- 多くの県営体育施設が老朽化している現状や県内の体育施設の整備状況を踏まえつつ、プロスポーツを開催できる施設や県民がスポーツに積極的に取り組むことができる施設の整備など、県の体育施設の在り方を総合的に検討します。

【重点施策４】

トップスポーツチームとの連携やスポーツツーリズムの振興による地域活性化の推進

- トップスポーツチームとの連携による学校や地域におけるスポーツ教室、スポーツイベント等の活動を、協賛企業や市町村とともに推進し、地域とチームの一体感を醸成します。
- トップスポーツチームの応援イベント等を盛り上げ、交流人口やスポーツビジネスの拡大、それに伴う地域の活性化を図ります。
- 県内のスポーツ資源と観光資源を活用・融合した地域スポーツの振興と地域の活性化を図るため、各種競技大会やスポーツ関連イベントを積極的に誘致する「いわてスポーツコミッション（仮称）」の設置を検討します。
- 豊かなスポーツライフの振興を目的としたスポーツイベントを開催し、県内外の人々との交流拡大や地域の活性化とともに、県民一人ひとりがスポーツに積極的に取り組める環境整備を図ります。

第3章 ライフステージごとの姿

ここでは、第2章の3つの戦略をもとに、県民一人ひとりのライフステージに着目し、それぞれのステージごとに見た期待する県民像を、乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期の4つに分けて整理します。

県では、県民の皆さんに期待する県民一人ひとりの「ライフステージごとの姿」の実現に向け、年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、あらゆる人々が文化・スポーツに関わり、親しむことができるよう、関係主体間相互の連携や情報共有を促進するとともに、第2章に掲げる3つの戦略に沿って総合的かつ計画的に施策を推進します。

また、県だけではなく、家庭や地域、企業など関係団体等が一体となって目指す姿を実現していくため、それぞれが果たすべき役割と具体的な取組の方向性のイメージについても示します。

1 乳幼児期

- 親や兄弟など家族とのふれあいや友達との遊びの中で、歩く、走る、跳ぶ、投げるなどのほか、聴く、話す、歌うなどの体験を通して生涯にわたる健全な心身の基礎を培います。
- 地域の自然に触れたり、祭りなどの伝統行事に関わったりすることで楽しさや嬉しさを感じながら、豊かな情操を養い、創造性や豊かな人間性を育みます。

《各主体の関わり》

家庭	<ul style="list-style-type: none">◆ 親子で外遊びや運動に親しむとともに、子どもの「やってみたい」という感情を可能な限り尊重します。◆ 豊かな自然や芸術文化に触れる機会をつくれます。
地域、NPO等	<ul style="list-style-type: none">◆ 自治会など地域の組織を通じて、子どもたちが安心して元気に遊ぶことのできる場や、親同士の交流の場を確保します。
幼稚園、保育園	<ul style="list-style-type: none">◆ 集団での遊びや運動などを通じて、心身の発達の基礎をつくれます。◆ 歌うことや描くことのほか、地域の祭りなどへの参加を通じて、楽しさや嬉しさを体感させます。
企業	<ul style="list-style-type: none">◆ 保護者が家庭教育や地域活動に積極的に取り組める職場環境を整えます。◆ 様々な体験の場や機会の提供など、幼稚園・保育園の活動や家庭教育、地域活動への協力を行います。

2 青少年期

- 学校内外を通じて、興味・関心等に合った様々な文化・スポーツを、体験したり見て楽しんだりしながら、豊かな情操の涵養、体力の向上、健康の増進を図るとともに、仲間や友人との交流を深めます。
- 自ら進んで郷土の歴史、伝統文化、芸術などの多様な文化に触れ、体験することを通じて、楽しさや感動、精神的な安らぎや喜びを感じるなど、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性を培います。

《各主体の関わり》

家庭	<ul style="list-style-type: none">◆ 子どもの主体性を尊重し、様々な活動への参加を促します。◆ 豊かな自然や芸術文化に触れる機会をつくります。
地域、NPO等	<ul style="list-style-type: none">◆ 異なる世代が交流する様々な体験機会の創出を通じて、人間関係を形成する力を養い、基本的なマナーやルールなどを身に付けます。◆ 歴史と風土に培われた地域固有の文化や芸術を正しく理解し継承できるよう、積極的な参画促進を図ります。
学校	<ul style="list-style-type: none">◆ スポーツの意義や特性などに関する理解を一層深めるとともに、将来に向けてのスポーツ習慣を形成するため、発達段階に応じた育成を促進します。◆ 音楽や舞台芸術の鑑賞の充実を図るとともに、博物館や美術館の作品鑑賞等の機会を提供します。
企業	<ul style="list-style-type: none">◆ 保護者が家庭教育や地域活動へ積極的に取り組めるよう、職場での諸制度の整備や環境の充実に努めます。◆ 地域や学校との連携・協力により、スポーツや文化芸術に触れる機会を確保するとともに、地域のスポーツ・文化活動の活発化を支援します。

3 成人期

- 地域や職場など、スポーツ・レクリエーション活動を通して仲間や友人との健康的なライフスタイルを確立するとともに、家族でのスポーツの実践や自然体験の充実を図り、大人から子どもへとスポーツ文化の伝承を進めます。
- 社会的、経済的に自立する中で、文化・芸術に触れることを通じてこれまで培ってきた豊かな心や創造力を背景として、地域や国を超えた交流を促進するとともに、郷土の自然や歴史、伝統的な文化・芸術を次世代に伝えていきます。

《各主体の関わり》

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 家族との触れ合いを高めるような親子でのスポーツの実践や、家族での自然体験やボランティア体験の充実を図ります。 ◆ 豊かな自然や芸術文化に触れる機会をつくります。
地域、N PO等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 異世代間の交流機会の拡大や時代を担う人づくりの場をつくります。 ◆ 地域の自然や伝統文化の保存・継承に向けた取組を進めます。
学校	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保護者に対して情報を提供するとともに相談機能の充実を図ります。 ◆ スポーツ・文化活動のフィールドを提供します。
企業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 家庭、学校、地域での活動に、保護者が積極的に関われる職場環境づくりに努めます。 ◆ 従業員の自己実現に向けた支援を行います。

4 高齢期

- 仲間や世代間を超えた人々の交流を確保するため、地域におけるスポーツ・レクリエーションの場に参加したり、ボランティア活動や趣味のサークルに積極的に主体的に関わる機会をつくっていきます。
- これまでの活動の再開や新しい分野へ挑戦する意欲を持ち、引き続き文化芸術やスポーツに親しむとともに、次世代の育成や地域での社会貢献に取り組みます。

《各主体の関わり》

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 長い生活体験や人生経験から得られた豊富な知識や技能などを、家族に伝えることを通して、スポーツや文化に関わることの喜びや楽しさを家族と分かち合います。
地域、N PO等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 健康・体力づくりに向けて、地域の行事を始めスポーツやレクリエーションに親しめる環境づくりに取り組みます。 ◆ 次世代育成や地域の担い手の育成に関わることのできる場や機会をつくります。
企業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ これまで培った豊富な経験や知恵を、次世代の育成に向けて活用できる世代間交流の場をつくります。

第4章 戦略の推進

1 推進体制

平成27年7月の釜石・橋野鉄鉱山の世界遺産登録、昨年の平泉世界遺産登録5周年や希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催などを通じて醸成された県民の文化・スポーツに対する関心の高まりや参画意識を次の世代につなげ、本戦略の推進力としていくため、文化・スポーツに関する事務の知事部局への一元化を行うとともに、その事務を担う専担組織を設置します。

この推進体制の構築により、従来、取り組んできた文化・スポーツに関する施策の充実はもとより、各部局で実施する関連事業をコーディネートし、地域・NPO等と学校との連携の更なる促進のほか、健康づくりなどの保健・福祉分野や観光をはじめとする産業分野への政策間連携を進めるなど、各施策の磨き上げを図っていきます。

さらに、文化・スポーツが持つ多面的価値を社会的・経済的な力に深化させ、県民一人ひとりの個性と創造性が輝き、「住みたい」「訪れたい」と感じる地域づくりを進めていきます。

このため、文化・スポーツの振興を担う市町村・関係団体をはじめとした多様な主体と連携を図りながら、目指す姿の実現に向けて、庁内に各部局長等を構成員とする「岩手県文化・スポーツ事業推進本部（仮称）」を設置するなど、学校教育や文化財、生涯学習を所管する教育委員会と連携し、部局横断的な取組を戦略的に進めていきます。

さらに、文化・スポーツの振興のため、必要な環境の整備と財政上の措置を講じていくほか、文化・スポーツ振興に係る条例・指針の制定等も含め、推進体系の在り方について幅広く検討していきます。

2 多様な主体との協働

県民一人ひとりの文化・スポーツ活動への参加をはじめ、文化・スポーツの環境整備や支援体制の整備・専門的な指導人材の育成・活動の情報発信などについては、県・市町村・関係団体・企業などが協力・連携し、さらには県民運動的な盛り上がりを図りながら推進していくことが必要です。市町村、芸術文化協会、地域型スポーツクラブ等と身近な文化・スポーツの取組について連携を深めていくとともに、「岩手県文化芸術振興審議会」や「岩手県スポーツ推進審議会」をはじめ、文化・スポーツに係る専門的な知見を有する各種団体からの意見等を県の施策に反映させていきます。

また、文化・スポーツ団体等と学校部活動との交流機会の促進や、アーティスト・トップスポーツチームと地域との協働・連携体制の充実を図るなど、より長期的な視点のもとで、本県の文化・スポーツを担う人材の育成に取り組んでいきます。

さらに、ラグビーワールドカップ 2019TM 釜石開催及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の成功をはじめ、「平泉の文化遺産」の拡張登録や「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けて、県として必要な推進体制を構築していきます。

「岩手県文化芸術振興指針」実施効果の検証について

1 実施効果の検証

指針に掲げる評価項目ごとに、数値化のほか、事例等を織り交ぜながら、数字のみに依らない具体の動向把握に努める。

【具体的な手順】

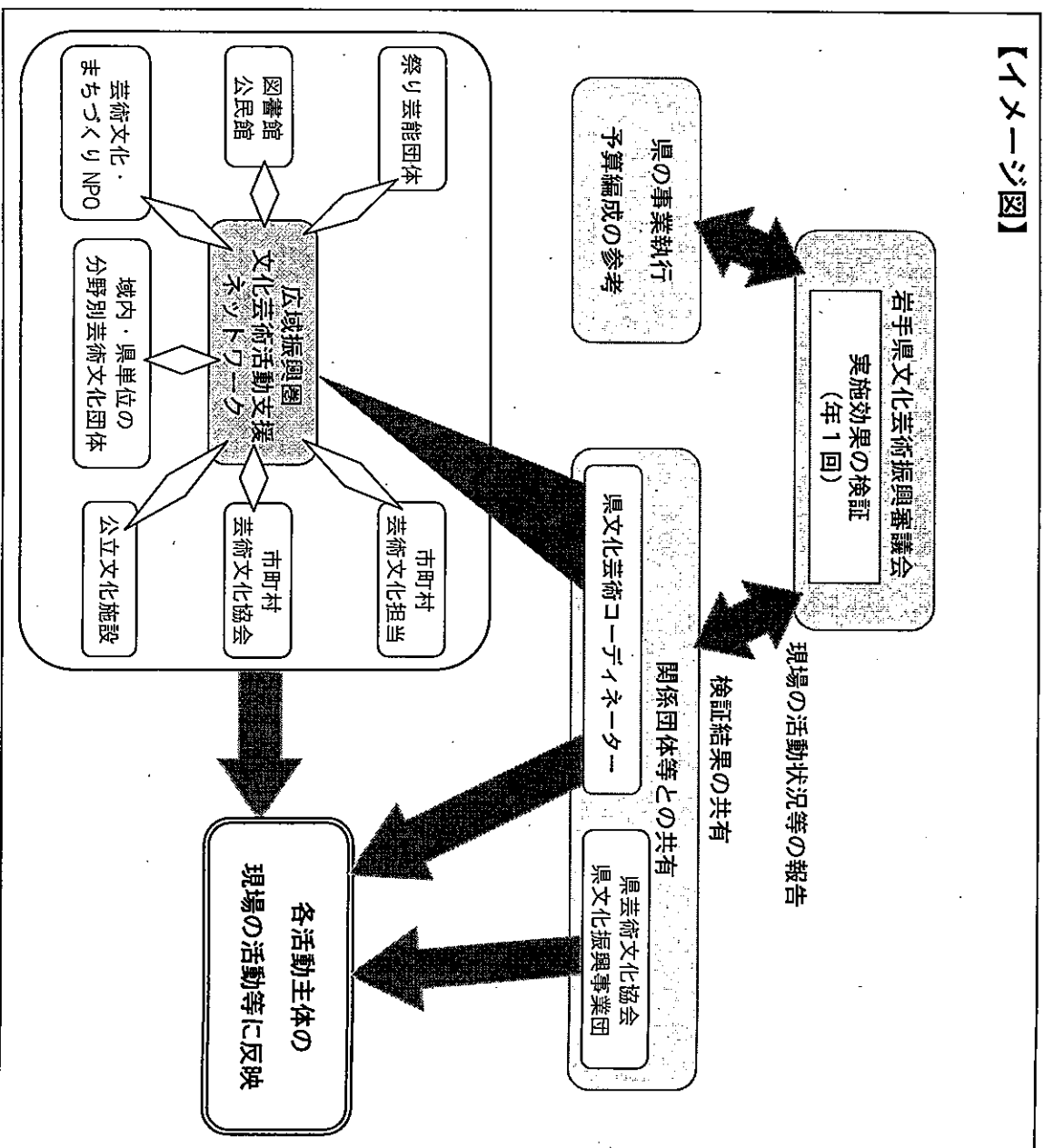
- ① 参考指標等の作成
 - ・ 定量的な評価項目（※1）については、現実的に把握可能な範囲で数値化に努める。また、数値で捕捉しきれない内容がある場合は、代表的または特徴的な事例を挙げて補足する。
 - ※1 「～が増えているか」等、数量的な増減を問う項目。
 - ・ 定性的な評価項目（※2）については、代表的または特徴的な事例を挙げるほか、関連する数値指標等により内容把握に努める。
 - ※2 「～されているか」「～になっているか」等、状態を問う項目。
 - ② 施策の方向ごとの総括・まとめ等
 - ・ ①の参考指標等をふまえ、施策の方向ごとに進捗状況や課題等をまとめる。
 - ・ 個別の予算事業の取組状況等、評価項目に反映しきれないものうち、特徴的なものや関連度の高いものの動向も記載する。
 - ③ 岩手県文化芸術振興審議会における議論
 - ・ 事務局が取りまとめた①及び②について、各委員が把握する実状や専門的な見地からの意見等を聴取し、今後の取組に活かしていく。

2 検証結果の反映

検証の結果、明らかになった課題や注力すべき事項について、下記のとおり情報共有するとともに、各活動主体の取組に反映させていく。

- ① 県の事業執行及び予算編成の参考
 - ② 関係団体等との共有
 - 県文化芸術コーディネーター、県芸術文化協会や県文化振興事業団との情報共有
 - 各広域振興圏の「文化芸術活動支援ネットワーク」を通じた情報共有
- ⇒ 各活動主体の現場の活動等への反映（※イメージ図参照）

【イメージ図】



岩手県文化芸術振興基盤強化事業について

文化振興課文化芸術担当

1 趣旨

本県の文化芸術の魅力をさらに高めるとともに、ラグビーワールドカップ2019、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会といった国際スポーツイベント等を活用した発信力のある取組につなげるため、文化芸術振興の企画・推進体制の基盤強化を図るとともに、本県の文化芸術の発信力及び訴求力を強化しようとするもの。

2 事業の方向性

公益財団法人岩手県文化振興事業団の企画・推進体制を強化し、県と両輪になって、県内各地域の文化芸術活動支援ネットワーク等と連携しながら、文化芸術振興施策の企画立案や文化芸術の発信力及び訴求力を強化しようとするもの。

- 岩手県文化芸術企画調整マネージャー1名配置 (H29. 6. 1～)

3 平成29年度実施計画

- (1) 地域の実情等を踏まえた企画立案等
 - ・ 各圏域の文化芸術活動支援ネットワーク等と連携した地域の実情把握
 - ・ 先進事例の調査（「創造都市ネットワーク日本」への参加など）
- (2) 専門研修の開催等
 - ・ 岩手県文化芸術コーディネーターや公立文化施設等のスキルアップの機会提供
- (3) 新たな企画の推進
 - ・ アートプログラム実施推進体制の構築（東日本大震災津波の際のアーティスト受入のノウハウを生かしたアウトリーチの仕組みづくり）
 - ・ その他、県文化芸術コーディネーター等と連携した取組実施

4 その他

- 予算
 - 文化庁の補助事業を活用（継続3年間）
 - 事業名：文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業（文化芸術創造拠点形成事業）

趣旨

岩手県では、これまで「岩手県文化芸術振興指針」に基づき文化芸術の振興に取り組んできたところであるが、少子高齢化等により、豊かな伝統文化の継承が困難になるなどの課題が顕在化していることから、伝統文化を活用した観光振興により、国際的な交流人口の拡大を図りながら、岩手の豊かな伝統文化の発展や次世代への継承につなげようとするもの。

【平成29年度効果検証指標】

- ・モデル事業実施地域数 4 か所
- ・事業協力民俗芸能団体数 8 団体
- ・体験プログラム提供地域数 4 か所

事業の背景

■強み：岩手は「民俗芸能の宝庫」

- ✓岩手は1,000団体以上の民俗芸能団体が活動中であり、質・量ともに国内外から高く評価
- ✓東日本大震災津波を機に、地域コミュニティ再生へ果たす役割の重要性が再認識

■課題：後継者の育成・公演機会の確保

- ✓学校教育における取組も多いものの、指導者の高齢化や少子化による後継者不足
- ✓地域の祭りやイベントだけの活動団体も多く、育成のための公演機会が不足

■機会：国際的スポーツイベント

- ✓東京オリンピック2020やラグビーワールドカップ2019™という契機
- ✓国内のみならず、国際的に広く岩手の伝統文化を発信する最大の機会

平成29年度事業の主な内容（民間委託）

訪日外国人が岩手の伝統文化をより深く理解できるよう、公演やワークショップ等の開催などを通じ、外国人を対象とした鑑賞・体験プログラムを開発（縦糸横糸合同会社へ委託予定）

○委託内容

- (1) 県内の民俗芸能団体の意向・現況確認
- (2) 多言語対応による公演や、関連ワークショップ・モニターツアーの企画及び運営業務（広域振興圏ごとに1回実施）
- (3) 広報及び集客計画の立案・実施業務
- (4) 食産業など、他分野の観光イベント等との連携
- (5) 体験イベントに使用するレプリカ（衣装等）や多言語対応のチラシ等の作成 等



スケジュール

2017年

- ・民俗芸能団体の意向確認等
- ・モデル地域の選定（県内4地域）
- ・公演・WS・イベント等による開発・PR

2018年

- ・H29事業検証
- ・実施地域拡大
- ・公演・WS・イベントによる開発継続
- ・事業PR

2019年

- ・H30事業検証
- ・実施地域拡大
- ・RWC開催関連事業との連携
- ・総合PRパンフレット作成

ラグビー
ワールド
カップ

2020年

- ・プログラムの全県展開
- ・過去3か年の事業の検証
- ・新たな事業展開による伝統文化の価値の発信

東京オリ
パラ大会

豊かさを
感じ伝え
る国「いわて」

障がい者の文化芸術振興について

文化振興課文化芸術担当

1 いわてアール・ブリュット魅力発信事業

(1) 目的

県内に潜在する優れたアール・ブリュット作品を美術品として世に広め、その魅力を発信することにより、県民の障がい者芸術に対する関心を高めるとともに、障がい者等への創作意欲の醸成を図る。

(2) 内容

「いわてアール・ブリュット巡回展（仮称）」の開催【新規】

ア 概要

本県作家によるアール・ブリュット作品の魅力発信をテーマとした作品展を開催するもの

イ 展示箇所

県内 4カ所

※ 1 広域振興圏ごとに1圏域1カ所を想定

※ 2 1カ所当たりの展示期間は3週間程度を想定

ウ 展示点数

25作品程度

※ 昨年度開催した「アール・ブリュットいわて展」と同規模のものを想定

2 障がい者芸術活動支援事業

(1) 目的

ア 本県のアール・ブリュットを優れた作品として世に出し、県民の財産として守り発信していくため、作品の評価や作者の権利擁護のあり方における県の方針を検討する。

イ 芸術活動に取り組み障がい者やその家族、事業者に対する支援を推進する。

ウ 障がい者が日頃取り組む文化芸術活動の成果を紹介・発表するため、作品展示、記念式典及び音楽祭を開催するとともに、他の音楽祭等との連携により県民の障がい者に対する理解促進を図る。

(2) 内容

ア 本県におけるアール・ブリュット作品の評価手法の検討【新規】

イ 「岩手県障がい者文化芸術権利保護ガイドライン（仮称）」の策定【新規】

ウ 県内における障がい者芸術の取組実態調査の実施【新規】

⇒ 県内における障がい者文化芸術活動の実情（支援ニーズ等）が把握できていない状況を踏まえ、県内障がい福祉関係事業所を対象にアンケート調査を実施し、各事業所の取組状況、アール・ブリュット推進に当たっての課題及び支援ニーズ等について分析調査を行う。

エ 障がい者芸術の支援者育成【新規】

⇒ 障がい者の芸術活動を支援できる人材が不足していることを踏まえ、外部有識者を講師に招いたワークショップ（芸術支援活動の演習等）を開催し、活動を支援する福祉サービス所等の職員のスキル向上を図る。

オ 障がい者文化芸術祭（11月）・障がい者音楽祭（12月）の開催【継続】

岩手県における「beyond2020プログラム」認証手続きについて

【要 旨】

この度、県は、東京2020オリンピックピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの1つである「beyond2020（びよんど・にーぜろ・にーぜろ）プログラム」の東北初の認証組織となり、県内に拠点を有する団体等を対象とした認証申請の受付を開始しましたので、関連する事業・活動がある場合は積極的に申請されるようお願いいたします。

1 「beyond2020プログラム」とは

東京2020オリンピックピック・パラリンピック競技大会が開催される平成32年（2020年）以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを「beyond2020プログラム」として認証し、ロゴマークを付与することで、オールジャパンで統一感を持って日本全国へ展開していくものです。

2 認証のメリット

- (1) 「beyond2020ロゴマーク」を活用した広報が可能となります。
※ サイン、看板や告知物、販促物、商品など
- (2) 内閣官房の「beyond2020プログラム」ホームページに掲載されるほか、文化庁が全国の文化プログラムを集約・多言語発信するポータルサイト「Culture NIPPON」にも掲載され、広く国内外に情報発信されます。



3 認証要件

以下の要件を全て満たす事業・活動を認証します。

- (1) 日本文化(*)の魅力を発信する事業・活動
(*) 日本文化とは、伝統的な芸術からクールジャパンとして世界中が注目するコンテンツ、和食などの食文化、祭りや伝統的工芸品など、多様なものを含んでいます。
 - (2) 多様性・国際性に配慮した、以下のいずれかを含んだ事業・活動
 - ア 障がい者にとつてのバリアを取り除く取組
 - イ 外国人にとつての言語の壁を取り除く取組
- ※ 営利活動、非営利活動に関わらず、文化に関わる幅広い活動を対象とします。

4 実施主体

県内に拠点を有する、又は県外に拠点を有し県民を対象とした事業を実施する公的機関、民間事業者、その他任意団体など

※ 公的機関のほか、民間事業者、その他任意団体等幅広く参画いただけます。

5 申請方法

別添「Beyond2020プログラム認証要領」で定める以下の書類に必要事項を記載し、持参、郵送又は電子メールで申請してください。

(1) 必須

- ア 認証申請書 (別記様式第1号)
 - イ 宣誓書兼同意書 (別記様式第1号)
 - ウ 団体の活動内容が分かる書類 (規約等)
- (2) 任意
- 企画内容がわかる書類 (企画概要書等)

6 申請期限

ロゴマークを必要とする期日までに、2週間以上の余裕をもって申請してください。

7 申請先

文化スポーツ部文化振興課 文化芸術担当 (電子メール: AK0002@pref.iwate.jp)

8 その他

(1) 詳しくは、別添「Beyond2020プログラム認証要領」をご覧ください。なお、認証要領や申請様式等は、県のホームページ上でも公表しています。

URL: www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/beyond2020/index.html

(2) 国の参考ホームページアドレスは、以下のとおりです。

ア 内閣官房「Beyond2020プログラム」

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/beyond2020/index.html

イ 文化庁「Culture NIPPON」

<http://culture-nippon.go.jp/ja/#categories/beyond2020>

平成29年度岩手県アーティストマネジメント研修開催要領

1 目的

岩手県内の各地域において、文化芸術の振興や文化芸術を活かした地域づくりなどに
取り組む人材の育成及び相互交流の促進を図ること。

2 主催

岩手県

3 日時

平成29年 9月15日 (金) 13時から16時30分まで

4 場所

もりおか町家物語館 浜藤ホール (盛岡市鉾屋町10-8 TEL: 019-654-2911)

5 対象者

- (1) 県・市町村の文化行政・地域づくり担当職員
- (2) 公立文化施設・観覧施設職員
- (3) 県・市町村芸術文化協会及び会員団体関係者
- (4) その他県内で活動する文化芸術関係団体・地域づくり団体関係者等

6 内容

- (1) オリエンテーション【13：00～13：05】
- (2) 講演【13：05～14：35】

県内各地域での文化芸術の振興や文化芸術を活かした地域づくりに向け、「地域と
アートを結び付ける」ことをテーマに、講師を2名招き、それぞれの活動紹介や2名
によるトークセッションを行っていただきます。

【講師】

小澤 櫻作 氏 (長野県上田市交流文化芸術センター・プロデューサー)

長野県上田市の直営文化施設である上田市交流文化芸術センター(サントミュージゼ)は、
開館3年目の新しい劇場ですが、多彩なラインナップと先進的な地域交流の取組で、今最
も注目される劇場となっています。そのサントミュージゼで立上げから携わってきた小澤氏
から、サントミュージゼの様々な取組や、自治体直営文化施設の強み、可能性などについ
て伺います。

《講師略歴》

1998年～2000年 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールで主にコンサートポラリータダンス、
演劇の企画制作を担当。2000年～2001年 文化庁在外派遣研修員(アーティストマネジメント
部門)としてライオン国立歌劇場(オーストリア)へ派遣、オペラ制作を学ぶ。2001
年～2012年 (財)地域創造で「公共ホール音楽活性化事業」を中心に音楽分野の事業
を担当。2008年～2013年 (公財)アライニス文化財団で主に「アライニス夏の音楽祭」
の企画制作を担当(地域創造との兼務)。上田市交流文化芸術センターの開設準備に
2013年から携わり、現在はプロデューサーとして主に音楽事業の企画を担当。このほ
か、(公財)北九州市芸術文化振興財団・音楽事業アドバイザー(2015年～、「響シリ
ーズ」を中心に音楽事業を担当)、(一財)地域創造「公共ホール音楽活性化事業」チ
ーフコーディネーターも務めている。

坂田 雄平氏 (プロジェクトデザイナー)

全国屈指の劇場である北九州芸術劇場において、劇場内に止まらず、「北九州ならではの魅力」×「芸術」という切り口で北九州市内全域に活動を広げ、地域の人たちとともに北九州ならではの芸術作品を次々と生み出してきた坂田氏から、文化芸術で地域を楽しく豊かにする企画の立案・運営のポイントなどについて伺います。

《講師略歴》

1980年盛岡市生まれ。舞台芸術に関するプロジェクトのデザイナー、コーディネーター、作品制作、ドラマトワルク等として活動。スタヂオタングプロジェクトデザイナー、(一財)地域創造「公共ホール」現代ダンス活性化事業」コーディネーター等を務める。2003年～2007年 桜美林大学舞台芸術研究所のチーフとして同大学付属劇場プロジェクトの事業企画及び運営を行う。2007年～2011年 (財)地域創造にて演劇事業や調査研究・人材育成事業を担当。その後、特定非営利活動法人いわてアートセンターにて教育普及事業のコーディネーターを行い、2012年から北九州芸術劇場で舞台芸術フェスティバルほか文化施設間連携 (音楽・漫画・動物園等) による舞台製作や企業・団体と連携して実施する領域横断型プロジェクト (商工・観光・教育・福祉、スポーツ、交通、まちづくり等) の企画を行う。

(3) ワークショップ「企画 (プログラム) の立て方」【14：45～16：30】

【講師】小澤 櫻作氏、坂田 雄平氏

文化芸術活動を展開していくための企画の立て方 (プロセス)、ポイントについて理解を深めていただきます。5～6名ほどのグループ (所属分野別) に分かれて行います。

(4) 閉会【16：30】